

バーンステーション・メディカル

自分の健康な毛根を植える 新型ロボット「植毛最前線」

11月末のある日、東55丁目にある「バーンステーション・メディカル／センター・フォー・ヘア・レストレーション」に、世界的な植毛の権威ロバート・バーンスタイン先生を訪ねた。

「最先端のロボットを見せよう」とバーンスタイン先生が嬉しそうに言った。先生が言うこの「ロボット」とは、巨大なマシン「ARTAS」だった。11月初旬に発売になった、正に最先端機器。11年12月現在、世界で3カ所（コロラド、カリフォルニア、そして先生のオフィス）にしかないそうだ。

「このロボットのおかげで、植毛に使う健康な患者の毛根を、損傷することなく、ごっそりきれいに抜き取ることができるようになったんだ」と先生は目を輝かせる。

そもそもバーンスタイン先生が開発した植毛方法というのは、患者の健康な髪の毛を毛根ごと切除し、抜けてツルリとなった部分の頭皮に新たな毛穴を作って埋め込むというもの。術後10週間で育毛が始まる。人工植毛ではなく自分の髪の毛なので、その後は普通に伸びる。

この方法の植毛技術には、FUT（Follicular Unit Transplant）と、FUE（Follicular Unit Extraction）の2種類がある。

従来からあるのがFUTで、患者の髪の毛がある部分（主に後頭下部）から横長・長方形に頭皮ごと切除し、技術者が顕微鏡をのぞきながら毛根を手作業で取る。この方法は、毛根を傷つけることなく抜くことができるが、術後しばらく後頭部に横長・長方形の「無毛ライン」がくっきりできるという、



バーンスタイン先生と先端植毛ロボット



バーンスタイン先生の実際の患者さんの術前(左)と術後



A:毛根の束

見た目の問題があった。

一方のFUEは、この「無毛ライン」を作ることなく、頭全体のあちこちから毛根を取る。ただ、頭皮から直接手作業で毛根を取るなので、どうしても毛根の「根」の部分を損傷するという。それを解決したのがこの「ロボットだ」。

「患者に、顔を下にして座ってもらい、後頭部の毛根をコンピューター画面で拡大して見ながら、ロボットが毛根を傷つけずにきれいに抜き取るんだ。画期的なんだよ」とバーンスタイン先生は言う。FUTよりも時間はかかるが、より患者に便利で、しかも確実な植毛が可能になった。

毛根は、写真Aのように、「束」になっている。植毛料金はこの「束」につき従来のFUEで6ドル、ロボット料金だと10ドルになる。平均3000束は必要というから、単純計算しても、安くはない。

しかし、バーンスタイン先生曰く「髪の毛を取り戻して、人生が変わったという患者さんがたくさんいます。自信がついて、仕事や学校の成績が上がったという報告を受けますよ」。先生にとって、こうした患者の声は大きな励みになるという。

年間400ケースを手掛けるというから、いかに世の男性が抜け毛で悩んでいるかがわかるというもの。年齢層は25歳から84歳までと幅広い。眉毛の植毛も手掛ける。

Bernstein Medical
Center for Hair Restoration
Dr. Robert Bernstein
110 E. 55th St., 11th Fl.
(bet. Park & Lexington Aves.)
TEL: 212-826-2400
www.bernsteinmedical.com

Original Source:

<http://www.yomitime.com/122311/2601.html>